

新科目「公共」を意識した授業「政治・経済」の最終回

千葉県立東葛飾中学校・高等学校 公民科教諭 内久根直樹

内容

- ・オンライン／オフラインの限界と可能性（時空と身体性）
- ・身体性を伴う授業の実践例
 - ・じゃんけん大会 → 「囚人のジレンマ」
 - ・貿易ゲーム → 世界経済を教室に再現
 - ・ゲリマンダー体験→ 選挙区割りの学習
- ・最終回の映像
- ・withdraw? draw with...

2022年度から高等学校の公民科において必修科目「公共」が新設される。公共は主権者教育を軸に、自らが社会に参画する力を身につけることを目指す。2年後の導入を見据え、本市にある県立東葛飾高校（平賀洋一校長）の「政治・経済」の授業では7月2日、東京都知事選挙を題材に模擬選挙の授業が行われた。有権者となる18歳の生徒と、選挙権を持たないに励む新人選手を応援しよう、鎌ヶ谷市が2011年からスタートした。プロ野球ファンで船橋市

投票率アップに期待 模擬選挙で「公共」先取り

東葛飾高校3年生320人

17歳が混在する高校3年生320人が学んだ。授業では有権者役がピプスを着用した19人と着用しない21人に分かれ、3議席を争って選挙区割をどうする

黒板		
××	××	××
×○	○○	○×
×○	○○	○×
×○	○○	○×
×○	○○	○×
×○	○○	○×
××	××	××



模擬投票を行う東葛飾高校の生徒たち

れば議席をより多く取れるかが発問された。事前に学習した公職選挙法や選挙制度の仕組みをもとに活発な意見交換が展開し、少数者側が2議席を獲得するためよく考えられた回答が得られた。都知事選の投票日近くでもあり、生徒たちが動画サイトなどで候補者の演説やマニフェストなどを目にし、関心を高めていたことから今回の模擬投票を取り入れたという担当した内久根直樹教諭は「選挙区のバランスを取りながら、一票の格差が小さくなるように非常に考えられている」と生徒たちの回答を高く評価した。当日は教室内に設置された投票箱に一票を投じた。

模擬投票後、17歳の小井隆太郎さんは「公約などを調べることで勉強になった。18歳の副島拓真さんは「教育を決めるのも政治なので、政治に対して関心があった」「選挙に行くきっかけになる」と話した。

『朝日れすかプラス』9月号



①



②



③



④



⑤



⑥



⑦

①・②は千葉県高等学校教科研究員としてH29・30年度に実施したもの。⑤は模擬裁判授業方法の紹介（202-3頁）、⑥は生徒の探究学習のサポートの報告（88-92頁）、⑦は事業紹介。